

知多半島地域におけるACPの推進

保里 恵一 氏

愛知県厚生農業協同組合連合会 知多厚生病院
地域医療福祉連携部長、篠島診療所長



1.活動の背景

愛知県知多半島南部に位置する当地域は、少子高齢化・人口減少が著しく進行している。当地域の高齢化率は30%を超え、当院は急性期から在宅医療までの切れ目のない医療を提供し、地元医師会・行政等と協力して地域完結型医療を展開している。医療資源や社会資源に乏しいこの地域で、人生の最後を迎えるにあたりどのような医療やケアを受けたいのかは人様々である。穏やかな最後を迎えることは人すべての願いであり、終末期の在宅医療を含めた地域包括ケアの土台となるアドバンス・ケア・プランニング(ACP)が必要とされるこの時代、医療現場での更なる取り組みが期待されている。

2.目的

当地域でのACPを推進するために、知多半島および近隣医療圏の7病院(国立長寿医療研究センター、公立西知多総合病院、半田市立半田病院、常滑市民病院、知多厚生病院、中京病院、南生協病院)において4年前に立ち上げられた“知多半島においてアドバンスケアプランニングとエンドオブライフディスカッションを推進する会”に参加し、広くACPの普及を進めてゆく。

3.活動方法

平成30年度は当院が7病院の幹事となり、地域住民を対象とした講演会と医療関係者を対象とした人材育成研修会を開催する。住民向けの講演会では、患者自身が人生の最終段階においてどのような医療やケアを受けたいのか考えて頂く機会を提供する。人材育成研修会では、人生の最終段階を迎える患者・その家族を支援する際に必要となる倫理感や判断能力、コミュニケーションスキルの獲得を目指す。一方、当院独自の取り組みとしてお寺の住

職によるグリーフケアを目的とした催し“花まつり”に参加して住民へのACP普及を行う。



信濃山全忠寺(美浜町)で開催された“花まつり”に参加した様子

4.期待される効果

このACP推進の活動にて、誰もが迎える終末期において、患者本人の意思を汲み、患者・家族の意思が尊重され、安心・納得・満足のできる医療・サービスを提供することにより、人生の最後を住み慣れた地域、住み慣れた街、住み慣れた家で穏やかに迎えることができる地域づくりが期待できる。更に、この活動が当院の理念でもある「保健・医療・福祉の活動を通じて、地域住民が安心して暮らせる地域社会づくりに貢献」することに繋がると考える。